



「わかりやすい授業」

教頭 内川 雄介

記録的な速さで梅雨が明け、猛暑日が続くなど、なかなか経験のない6月、7月になりました。本校ではコロナ感染防止対策を徹底しながら、熱中症対策にも取り組んできました。日頃より本校の教育活動について御理解と御協力を賜り感謝いたします。先日の授業参観においては参観人数や参観日等制限のある中でしたが、多数の保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。

さて、本校では今年度「わかりやすい授業をめざした指導・支援方法に関する研究～子どもたちの「わかる・できる」を支えるために～」を研究テーマに教職員が研修に取り組んでいます。具体的には「子どもたちの実態を把握するためにはどんな方法があるか」、「どんな教材教具を活用すると有効か」「授業に臨むにあたってどんな環境を設定する必要があるか」などについて理論を学んだり、実践を交流して深めたりしながら教職員一同日々研修に励んでおります。

ところで、皆さんにとって「わかりやすい授業」とはどんな授業でしょうか？人それぞれ「わかりやすい」の定義も違うことと思います。保護者の皆様も学生時代を思い出すと「あの授業はわかりやすかったな。」、逆に「あの授業は難しかったな」という授業もあったのではないのでしょうか。振り返ってみると自分は教諭として「わかりやすい授業」を実践できていたのでしょうか。評価は数々の卒業生にお任せしますが、心がけていたのは「子どもをほめる場面を作ることができているか」ということです。ほめる場面があるということは「できた」「わかった」という場面があるからです。子どもによってほめるポイントは違います。そのためには子どもたちのことをよく理解していないといけません。また、出来なかったことが出来たり、知らなかったことを知ったりする課題を考える必要があります。こんな時ヒントになるのが、毎日の連絡帳でのやりとりでした。休みの日に出かけたこと、興味のあるテレビ番組や歌のこと、やらかしてしまっただけなどを知ることが子どもたちの理解にもつながり、授業のイメージを膨らませることができました。

明日から夏休みがスタートします。ぜひご家庭でも「家のお手伝いをする」など1日1回お子さんをほめる場面を作ってください。そして夏休みが終わったときには、その様子を担任まで伝えてください。きっと「わかりやすい授業」につながっていくはずです。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

運動発表会の様子

今年は小学部、中学部・高等部で分かれ運動発表会を行いました。どの競技、演技においても児童生徒一人ひとりが輝いて取り組む姿が素晴らしかったです。

小学部



中学部・高等部

